

# 12章 セキュリティ

このマニュアルは、Mascot Server ver. 2.1 より追加された機能：セキュリティに関するマニュアルです。

目次：

12-1	セキュリティ機能の概要	2
12-2	セキュリティ機能をONにするには・・・	3
12-3	セキュリティ機能をOFFにするには・・・	5
12-4	ユーザー	6
12-5	グループ	7
12-6	セキュリティ管理ユーティリティーページについて	8
12-6-1	概略	8
12-6-2	セキュリティ管理ユーティリティーTOPページ	9
12-6-3	ユーザー編集画面	11
12-6-4	グループ編集画面	12
12-7	セキュリティ設定チュートリアル	16
12-8	Mascot Daemon の設定	25
12-9	設定Q&A	28

## 12-1 セキュリティ機能の概要

Mascot ver. 2.1 より新たにセキュリティ機能が追加されました。

セキュリティ機能を利用することで、管理者(Administrator)は使用ユーザー毎に、以下の項目に関する制限をかけることができます。

---

### 1. 管理 (ADMIN)

- データベースメンテナンスページへのアクセスと利用 (DB の追加やオプションの変更など)
- データベースステータスページ各種ユーティリティーの利用 (検索ジョブの削除・停止など)
- クラスタ設定内容の閲覧
- セキュリティ設定ユーティリティーページへのアクセスと利用

### 2. Mascot ファミリーの他ソフトウェアからのアクセス (CLIENT)

- Mascot Daemon (大量データ検索ソフト) からの検索
- Mascot Distiller (ピークリスト作成ソフト) からの検索
- Mascot Integra (プロテオミクスデータ管理システム) からの検索・結果取得

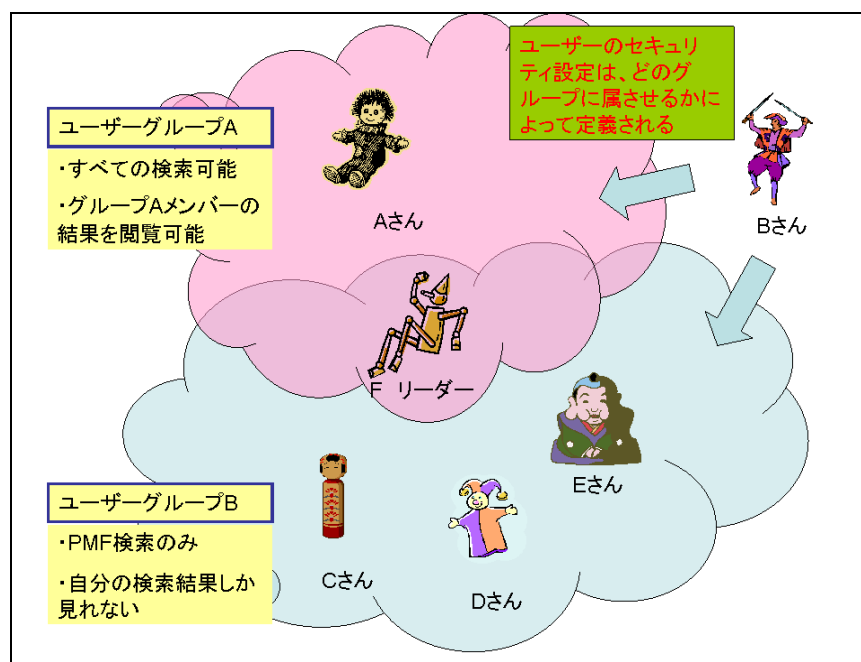
### 3. 検索 (SEARCH)

- 検索手法別 (PMF / SQ/ MSMS ) の検索許可
- No enzyme (すべてのペプチド切断を考慮する)検索の許可
- 同時検索本数・最大検索時間・検索の優先順位の設定
- DB 別の検索使用許可

### 4. 結果の閲覧 (VIEW)

- すべてのユーザー/ グループメンバー / 自分自身) の結果に対する閲覧許可
- 

Mascot のセキュリティ機能には、「ロールアップセキュリティ」という概念が取り入れられています。「ロールアップセキュリティ」では、許可の制御(Authentication)をユーザー単位で行うのではなく、グループ単位で行います。各ユーザーはいずれかのグループに属されるかで実行可能な項目を定義されます。ロールアップセキュリティの概念は、Windows や Oracle など幅広いソフトウェアで採用されています。



セキュリティ概念図

MASCOT のセキュリティ機能を利用する時は、

1. 管理者が各「グループ」毎に権限を定義する
2. 管理者が「ユーザー」を作成し、どの「グループ」に属するかを定義する
3. 使用者は、MASCOT サーバーにアクセスする際ユーザー名とパスワードを入力してアクセスする

という流れになります。

## 12-2 セキュリティ機能をONにするには・・・

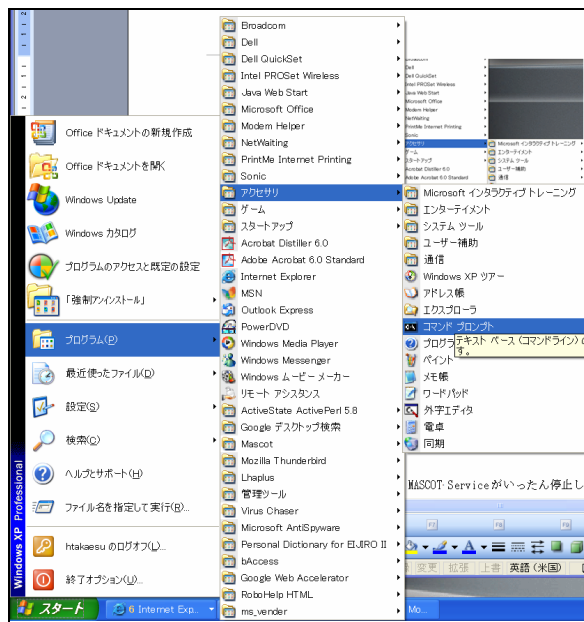
Mascot ver 2.1 のバージョンアップ/インストールを行った直後はセキュリティ機能がOFFになっています。セキュリティ機能をONにするためには、コマンドプロンプト/シェルにて mascot の bin フォルダに移動し、以下のようにコマンドを実行します。

【Windows での操作例】

### ① コマンドプロンプトを起動

(操作)

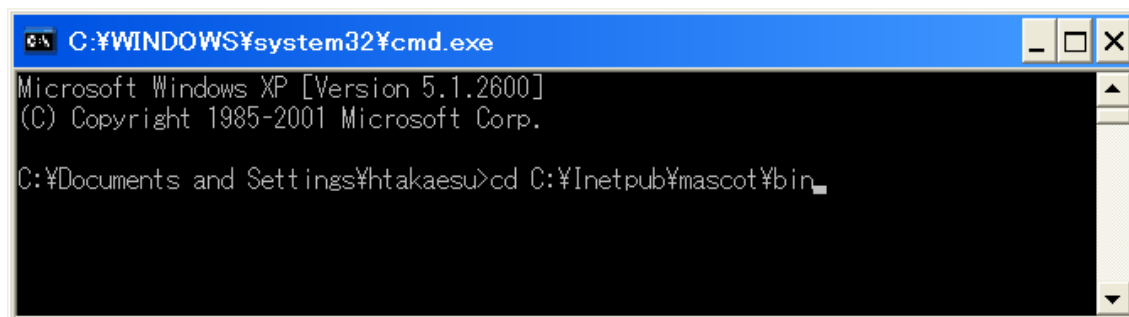
スタート→プログラム→アクセサリ→コマンドプロンプト



### ② mascot の bin フォルダへ移動

以下のようにコマンドを入力しエンターを押します。

(コマンド) `cd C:\inetpub\mascot\bin` (enter ボタン)



### ③ enable\_security.pl スクリプト (プログラム) の実行

以下のようにコマンドを入力しエンターを押します。

(コマンド) `perl enable_security.pl`

```

C:\WINDOWS\system32\cmd.exe

C:\Inetpub\MASCOT\bin>cd C:\Inetpub\mascot\bin

C:\Inetpub\MASCOT\bin>perl enable_security.pl
The password for the admin account has been set to 'admin' but you
will be required to change it at the next login.

C:\Inetpub\MASCOT\bin>

```

コマンドを実行後、MASCOT Service を停止し、再度起動します。（再起動します）。

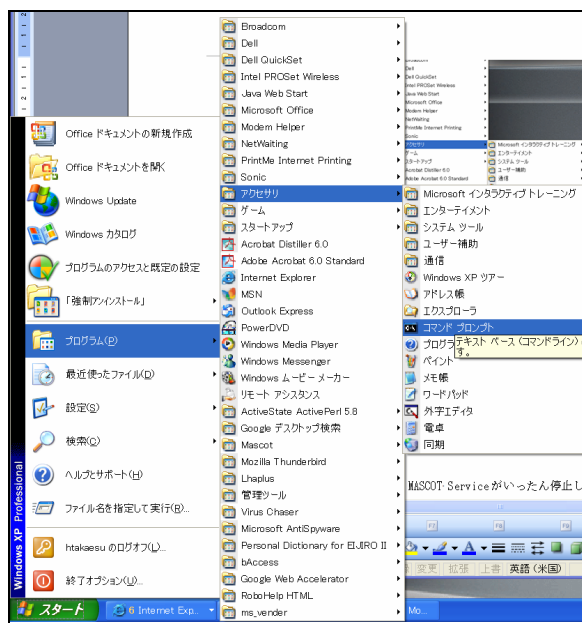
### 12-3 セキュリティ機能を OFF にするには・・・

セキュリティ機能を OFF にするためには、コマンドプロンプト/シェル にて mascot の bin フォルダに移動し、以下のようにコマンドを実行します。

(Windows での操作例)

#### ① コマンドプロンプトを起動:

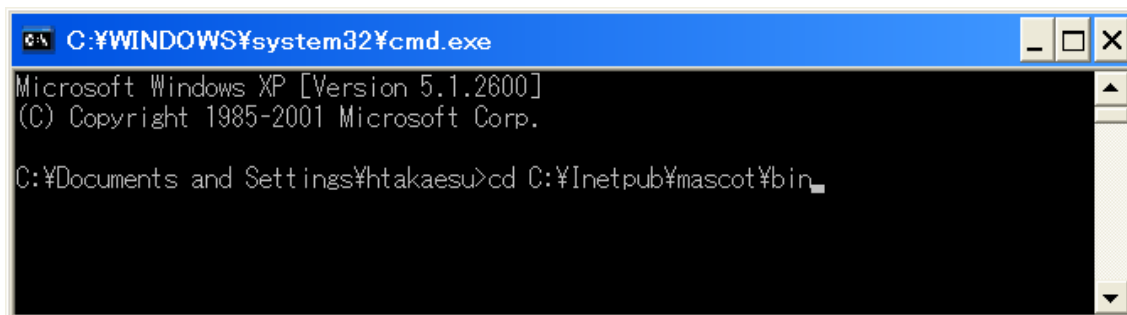
スタート→プログラム→アクセサリ→コマンドプロンプト



## ② mascot の bin フォルダへ移動

以下のようにコマンドを入力しエンターを押します。

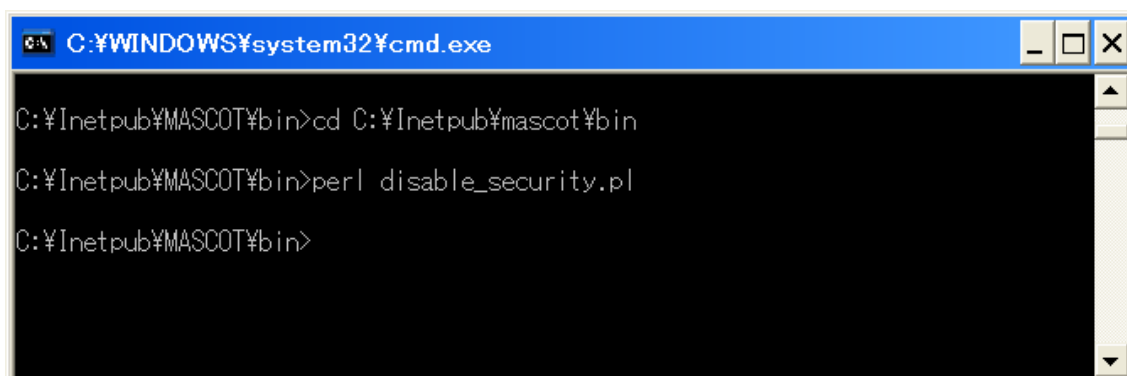
(コマンド) `cd C:¥Inetpub¥mascot¥bin` (enter ボタン)



```
C:¥WINDOWS¥system32¥cmd.exe
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:¥Documents and Settings¥htakaesu>cd C:¥Inetpub¥mascot¥bin
```

## ③ disable\_security.pl スクリプト (プログラム) の実行



```
C:¥WINDOWS¥system32¥cmd.exe

C:¥Inetpub¥MASCOT¥bin>cd C:¥Inetpub¥mascot¥bin
C:¥Inetpub¥MASCOT¥bin>perl disable_security.pl
C:¥Inetpub¥MASCOT¥bin>
```

以下のようにコマンドを入力し、エンターを押します。

(コマンド) `perl disable_security.pl`

コマンドを実行後、MASCOT Service を停止し、再度起動します。(再起動します)。

## 12-4 ユーザー

新規のユーザーは セキュリティ管理ユーティリティーページを使用して作成します。また、Mascot は主にシステム側で使用するために以下の6つのユーザーを準備しています。

### (1) guest (user id = 1)

使用権限が大幅に制限された検索用のユーザーです。デフォルトでは使用がOFFになっています。ONにした場合、すべてのユーザーはまず guest として自動的にログインします。guest ユーザーは Guests グループに与えられた権限を有しています。（\*guest ユーザーで可能な事象については、P.7 “12-5 グループ” の “guest” 項目をご覧ください。）

### (2) admin (user id = 2)

Mascot の設定変更を行う管理者用のユーザーで検索はできません。セキュリティ設定時のパスワードは “admin” ですが、最初のログイン時にパスワードを変更する必要があります。

### (3) daemon (user id = 4)

Daemon からの検索する場合の必要最低限な権限を所有するユーザーです。ただし、**Daemon から検索する場合にはこのユーザーでなくとも正しく動作します。**

Server 側でセキュリティ機能を ON にしている時に Daemon を使用する際には、Daemon にてユーザー名とパスワードを設定する必要があります。Daemon の Preference → Mascot login にてユーザー名とパスワードを設定してください。

詳細は “12-8 Daemon の設定” をご覧ください。

その他、Command line, public searches, system などといったユーザーがありますが、特殊な設定を必要とする場合を除き、通常はログインユーザーとして使用しません。ただしこれらのユーザーは MASCOT Server が内部で利用しますので、**絶対に削除しないでください。**

## 12-5 グループ

セキュリティ機能での各種権限は、ユーザーでなくグループに対して定義します。セキュリティ設定でユーザーをどのグループにも属させないと、作成したユーザーは何も権限を持たない状態となります。また、ユーザーを複数のグループに属させた場合は、属するすべてのグループで可能な事象を実行することができます。

Mascot Server はデフォルトで以下の5つのグループを持っています。

### (1) Guests

デフォルト設定では**検索可能な権限が大幅に制限されたグループ**で、guest ユーザーが所属しています。すべてのDBに対する検索が可能ですが、PMF 検索しかできません。また、Search log 画面を利用できず、他の人の結果も見ることができません。

## (2) Administrators

デフォルト設定では**管理専用の権限が与えられているグループ**で、Admin ユーザーが所属しています。MASCOT のシステム設定の確認や変更が可能です。検索はまったくできません。

## (3) Power Users

高い頻度で使用するユーザー向けのグループです。デフォルト設定ではすべての検索と、DB稼働状況や設定内容の確認画面を見ることができます。また、すべて検索結果を閲覧することができます。

## (4) Daemons

daemon ユーザーが属するグループです。検索に対しては PowerUser とほぼ同様の権限を有しています。Search log が利用できませんが、Daemon で他のユーザー名義の検索が可能です。

\*Daemon 検索の際に利用するユーザーは、Daemon ユーザー並びに Daemon グループに属するユーザー以外を利用しても問題ありません。

## (5) MascotIntegraSystem

(system)ユーザーが属するグループです。Integra ユーザー以外は特に必要ありませんが、削除しないでください。

# 12-6 セキュリティ管理ユーティリティーページについて

## 12-6-1 概略

Mascot を使用するユーザーを作成したり、ユーザーを登録させるグループを作成したりするにはセキュリティ管理ユーティリティーページを利用します。

最初にセキュリティ管理ページを利用するときは、以下のユーザーとパスワードを利用してください。

ユーザー名 : admin

パスワード : admin

ログイン後、新規パスワードの設定を要求されるので、5文字以上のパスワードを入力してください。



## 12-6-2 セキュリティ管理ユーティリティTOP ページ

ログインをすると、以下のような画面が現れます。

**Users**  
新規ユーザーの作成・削除・所属グループの変更などを行います。

**Groups**  
グループの作成・削除・権限の変更などを行います。

**Options**  
セキュリティ全般に関する各種設定ができます。(下記参照)

Option	Value	Option	Value
Security enabled	<input checked="" type="checkbox"/>	Verify IP address	<input checked="" type="checkbox"/>
Session timeout	21600	Logging level	3
Default password expiry	365	Mascot Integra server URL	http://integra:8080/topaz
Minimum password length	5	Mascot Integra database	integra
Use session cookies	<input type="checkbox"/>	Integra Oracle server	integra

Help window.  
Use this configuration application to add/delete/edit users and groups.  
For further help on any input parameter, hold the mouse over the blue text.

## 【Options の各項目について】

## ■ Security enabled

セキュリティ機能の ON/OFF。ただし Mascot のデフォルト設定ではこの画面から ON/OFF することができません。

## ■ Session timeout

タイムアウトの時間(秒)。設定時間内に命令がまったくない場合自動的にログアウトします。デフォルトでは 6 時間(21600 秒)です。

## ■ Default password expiry

パスワードの有効期限(日)。デフォルトでは 1 年です。

## ■ Use session cookies

cookie 機能を利用してログインの際パスワードを自動的に入力欄に入れる設定。デフォルトでは OFF になっています。

**■ Verify IP address**

ハッカーなどの不正ログインを防ぐため、ログイン時にセッション ID を割り振る際に IP アドレスを確認します。ただしこのチェックを ON にしていても複数の端末から同時にログインすることが可能です。デフォルトでは OFF になっていますが、Integra を使用されている方以外は ON にしても問題ありません。

**■ Logging level**

Security 関連のログファイルに記述するイベントレベルを定義します。1 ~6 までの 6 段階があります。デフォルトでは 3 になっています。

1 -> Error

2 -> Warning

3 -> Information

4 -> Debug level 1

5 -> Debug level 2

6 -> Debug level 3

**■ Mascot Integra server URL**

Mascot Integra のサーバーの URL

**■ Mascot Integra database**

Mascot Integra のデータベース名

**■ Integra Oracle server**

Mascot Integra で利用する Oracle データベース名

### 12-6-3 ユーザー編集画面

セキュリティユーティリティの TOP 画面にて、ユーザーの追加/編集を選ぶと以下のような画面が現れユーザーの設定ができます。

#### < (1) Add User 画面 >

#### **Name :**

ユーザー名。最長 50 文字です。

#### **Password :**

パスワード (デフォルト設定では 5 文字以上) 最長 50 文字です。

#### **Password expiry :**

パスワードの有効期限に関する設定をユーザー別に設定できます。

#### **Full name :**

ここに記入された名前が検索時にユーザー名の欄へ自動的に入ります。最大 50 文字。

#### **E-mail address :**

ここに記入された名前が検索時に電子メールアドレスの欄へ自動的に入ります。最大 50 文字。

#### < (2) Edit User 画面 >

#### **User type :**

通常は " Standard Mascot user " を選択してください。Integra ユーザーを作成するときは " Mascot Integra user " を選択してください。他のユーザータイプは通常利用しません。詳細は Setup Manual 12 章をご覧ください。

#### **Account enabled :**

作成/選択したアカウントを利用可能にするためにはここをチェックしてください。また、guest, daemon といったデフォルトで OFF になっている使用可能にするときもこのチェックを入れてください。

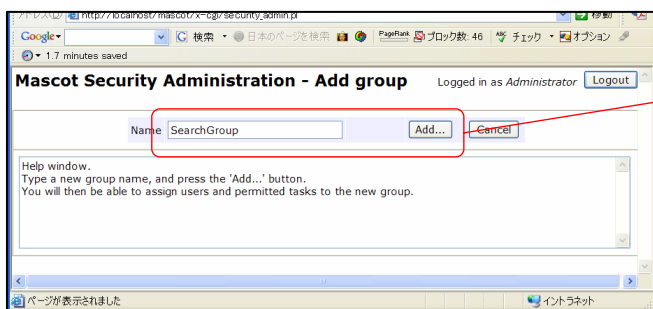
#### **グループの定義 :**

作成/選択したユーザーをどのグループに所属させるか決定します。複数グループに登録させた場合、両方の権限を有することができます。

## 12-6-4 グループ編集画面

セキュリティユーティリティの TOP 画面にて、グループの追加/編集を選ぶと以下のような画面が現れグループの権限の設定ができます。

### < (1) Add Group 画面 >



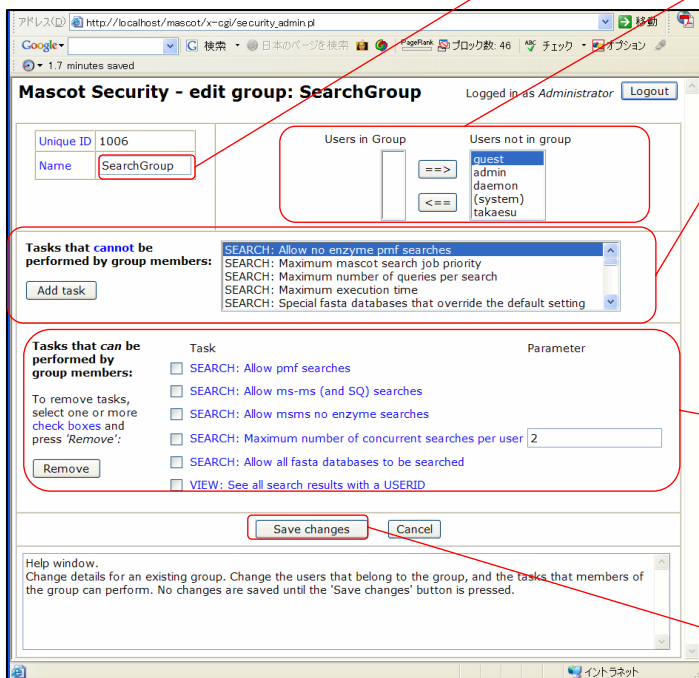
#### Name :

グループ名。最長 50 文字です。グループ名記入後” Add” を押すと、新規グループが作成されます。

#### Name :

グループ名。最長 50 文字です。グループ名の変更などはここからできます。

### < (2) Edit Group 画面 >



#### ユーザーの定義 :

グループに属するユーザーを設定できます。

#### 権限の付与 :

グループに割り振る権限を選択し、枠内左側の” add task” ボタンを押すと、グループに実行権限が付与されます。付与された実行権限は、下枠の権限一覧に項目が移行・表示されます。各実行権限の詳細については下記<実行権限一覧>をご参照ください。

#### 権限の削除・パラメーターの設定 :

割り振られた権限を削除したい場合はチェックボックスを ON にして、画面左の” Remove” ボタンを押します。削除された権限は、上枠の”実行できない権限一覧”に移行表示されます。また、権限の中には数値でパラメータを指定するものがあります。本例では” SEARCH: Maximum number of concurrent searches per user” の値を 2 に設定しています。

#### 設定保存 :

すべての設定が終了後、” Save changes” を押して設定を保存します。

## &lt;実行権限オプション一覧&gt;

## &lt;SEARCH&gt;

主に検索に関する実行権限です。

■ Allow pmf searches
PMF 検索を許可します。
■ Allow ms-ms (and SQ) searches
MS/MS Ions Search, 並びに Sequence Query 検索を許可します。
■ Allow msms no enzyme searches
MS/MS Ions Search, 並びに Sequence Query で Enzyme “None” (切断の特異性なし、すべてのアミノ酸での切断を考慮する)での検索を許可します。
■ Allow no enzyme pmf searches
PMF 検索で Enzyme “None” (切断の特異性なし、すべてのアミノ酸での切断を考慮する)での検索を許可します。 *No enzyme search は通常の検索と比べ 10~100 倍の検索時間を必要とします。
■ Maximum number of concurrent searches per user
1 ユーザーあたりで同時に検索できる本数を指定します。引数には正の整数を利用します。
■ Maximum mascot search job priority
検索時の優先度を指定します。引数には-10~+10 までの整数を利用します。通常の検索は優先度0です。
■ Maximum number of queries per search
1 検索のデータ数 (PMF のペプチドマス値 or MS/MS スキャン数) 上限値を指定します。これらの設定値はサーバー設定ファイル mascot.dat の中で全ユーザーに対する設定として予め割り振られていますが、このオプションで mascot.dat の設定をオーバーライドして割り振ることができます。引数には正の整数を利用します。
■ Maximum execution time
検索にかかる最大時間 (秒) を指定します。検索が指定した時間を超えるとサーバーが検索プロセスをストップ・削除します。引数には正の整数を利用します。
■ Allow all fasta databases to be searched
すべての DB の使用を許可します。 *下記パラメーターとの併用によりすべての DB が使用できないことがあります。

#### ■Special fasta databases that override the default setting

このオプションは、前頁オプション “Allow all fasta databases to be searched” が権限リストに加わっているかどうかで効果が変わります。

- 加わっている時 → 引数として指定した DB 以外が使用可能となります。
- 加わっていない時 → 引数として指定した DB が使用可能となります。

引数として DB 名をテキストで記入します。また、複数の DB を記入する時はコンマでつなぎます。

#### <View>

主に結果閲覧に関する実行権限です。

#### ■See search results from other people in your own group

自分自身を含む同じグループに属するメンバーの結果を閲覧することができます。

\* Search log 閲覧機能が OFF になっている時でも結果ファイルのリンク先をダイレクトに入力すれば他のメンバーの結果を見ることができます。

#### ■See search results with a USERID

\*USERID とは、セキュリティ機能が ON になっている段階で検索した際に結果ファイルに書き込まれるユーザー毎の ID のことです。

セキュリティ機能が ON になっている時に行われた検索すべてを閲覧することができます。即ち、前ユーザーの結果を見ることができます。ただし、セキュリティ機能を ON にする前の結果を見ることができません。

#### ■See all search results without USERID field

自分自身の結果と、セキュリティ機能が OFF の時検索した結果、ver 2.0 以前の結果を閲覧することができます。他の人の結果を見ることはできません。

#### ■Allow user to view the search log

Search log ページの閲覧を許可します。Search log 一覧に表示される結果は、上記3オプションの ON/OFF の内容によって異なります。

\*12-9 設定 “Q&A “では結果閲覧に関して様々なケースを想定した設定例を紹介していますのでそちらもあわせてご参照ください。

## &lt; General &gt;

## ■ View config files using ms-status

このオプションを ON にすると、WEB ブラウザに

<http://localhost/mascot/x-cgi/ms-status.exe?Show=XXXX> (Xは変数)

と入力すれば翻訳後修飾の設定ファイルや mascot.dat の中身を見ることができます。

\*\*変数部分についてはマニュアルの P 132 (152 / 262) をご覧ください。

## ■ Allow user to modify their own profile

プロフィール (検索時のユーザー名と E-mail アドレス) を変更することができます。プロフィールは WEB 画面より、Home -> Security -> Edit Settings と選んだ際表示される画面にて変更することができます。

## &lt; CLIENT &gt;

## ■ Mascot Daemon is allowed to submit searches

Mascot Daemon による検索を許可します。Daemon からログインするユーザーに必須なオプションです。詳細は、” 12-8 Mascot Daemon の設定” をご覧ください。

## ■ Mascot Distiller is allowed to submit searches

Mascot Distiller ( ver 2.0 以降) による検索を許可します。なお、ver 1.1.2 以前ではこの設定を行う必要がありません。

## ■ For Mascot Daemon , allow spoofing of another user

Mascot Daemon で検索する際に、Daemon のログインユーザー以外のユーザーから検索することができます。誰かが代理で Daemon 検索を行うが、結果は各々のユーザーしか見られないようにしたい場合などに利用します。代理で検索を行う場合には Daemon の Task タブにある、” Owner ” から検索ユーザーを選択してください。詳細は、” 12-8 Mascot Daemon の設定” をご覧ください。

また、このオプションを ON にすると、ms-status.exe プログラム (変数 : MS\_USER) を使ってユーザーの一覧を得ることができます。

## ■ Integra system account

Mascot Integra の使用を許可します。Integra で使用するユーザーには必ずこの権限を付与してください。

**< ADMIN >**

主に Mascot Server の管理に関する実行権限です。

<b>■ Use the security administration utility</b>
セキュリティ設定ページへのアクセスと編集を許可します。この権限は Administrators グループの人にしか付与しないでください。 *もし管理者と検索ユーザーを別々に設けず、ひとつのユーザーとして使いたい場合は、該当ユーザーを通常のグループと Administrators グループの両方に属させてください。
<b>■ Access to the Database Maintenance application</b>
データベースメンテナンス (MASCOT サーバーの設定・使用 DB の追加画面) へのアクセスと編集を許可します。
<b>■ Allow use of Database Status application</b>
Database Status の各 DB の状況を確認するためのハイパーリンク (statistics, undefined taxonomy など) へのアクセスを許可します。
<b>■ Allow user to see cluster pages in ms-status.exe</b>
クラスター設定部分の表示を許可します。
<b>■ Allow user to retry a failed database using ms-status.exe</b>
データベース構築に失敗した時に再度構築を試みるための Database Status のハイパーリンク “retry” を実行する許可を与えます。
<b>■ Kill/pause/change priority of searches from own group</b>
ms-status のユーティリティーを利用して、グループメンバーの検索ジョブの削除/停止/優先度の変更を許可します。
<b>■ Kill/pause/change priority of searches from other group</b>
ms-status のユーティリティーを利用して、全ユーザーの検索ジョブの削除/停止/優先度の変更を許可します。
<b>■ Access to the configuration editor to view configuration files</b>
** Mascot ver 2.1 では使用しません。
<b>■ Access to the configuration editor to edit configuration files</b>
** Mascot ver 2.1 では使用しません。

## 12-7 セキュリティ設定チュートリアル

ここではセキュリティの設定例を実際の操作画面とともに説明いたします。



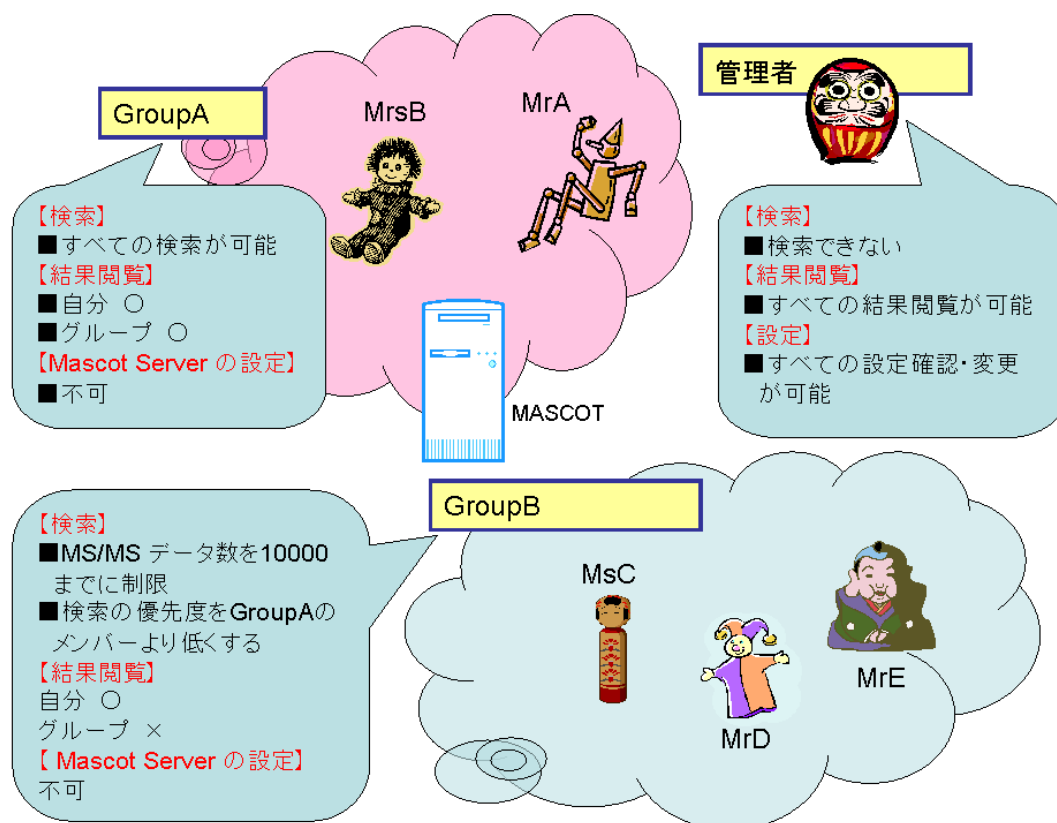
ケース)

ユーザー：

管理者1名：デフォルトの admin を使用

検索ユーザー5名： MrA , MrsB ( GroupA )

MsC, MrD, MrE ( GroupB )



[ユーザーの権限]

#### ■■ 検索 ■■

極度に負荷がかかる検索を除き、特に制限を設けない。ただし、Mascot Server が本来 A グループの所有物であるので、A グループの検索の優先度を高くし、B グループのメンバーには MS/MS データが 10000 以上の検索を許さない。

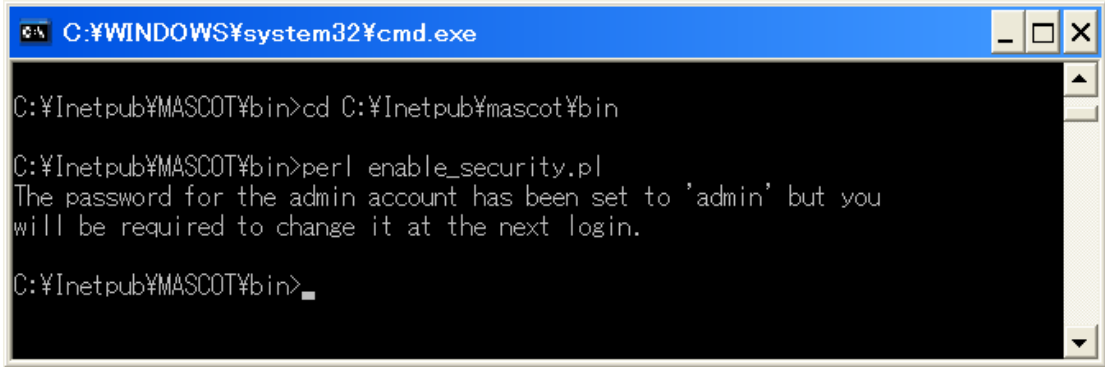
#### ■■ 結果の閲覧 ■■

A,Bともに相手のグループの結果を見られないようにする。Aグループはチームワークがよく、グループ内のユーザーの結果を見ることができるが、Bグループは秘密主義のメンバーが揃っているので、自分の結果しか見ることができない。

## 【操作例】

## ① セキュリティ機能を ON にする

“ 12-2 セキュリティ機能を ON にする ” の手順にあるように、enable\_security.pl をコマンドラインから実行します。



```

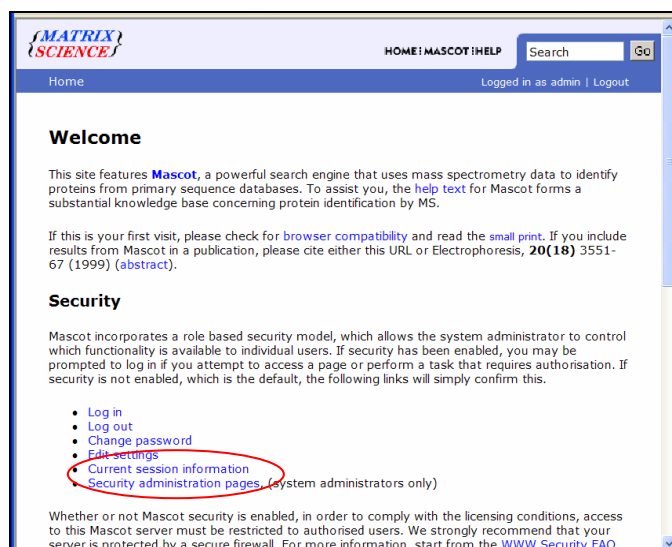
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
C:\Inetpub\MASCOT\bin>cd C:\Inetpub\mascot\bin
C:\Inetpub\MASCOT\bin>perl enable_security.pl
The password for the admin account has been set to 'admin' but you
will be required to change it at the next login.
C:\Inetpub\MASCOT\bin>

```

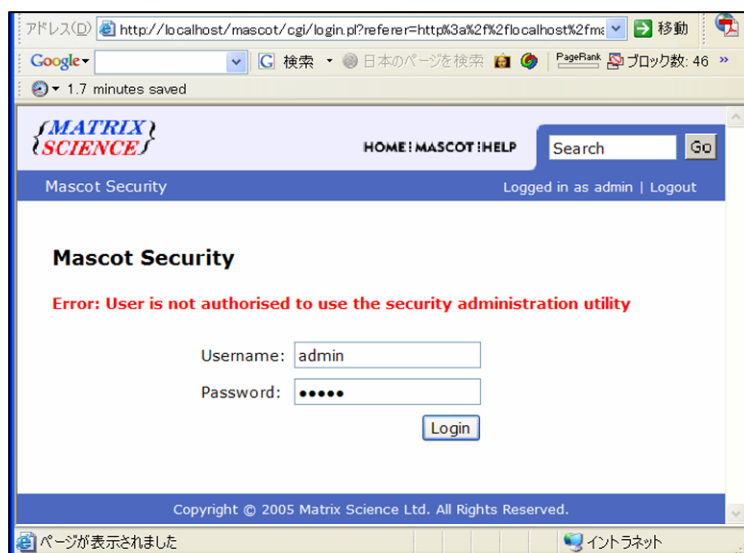
実行後、サービス、または、” Start(Stop) Mascot Service ” を利用して Mascot Service を再起動します。

## ② Security Administration pages へのアクセス

WEB から MASCOT の Home を開き、” Security ” → Security Administration pages へアクセスします。



クリックするとログイン画面が現れます。最初のアクセス時のログイン名/ユーザー名は admin/admin です。

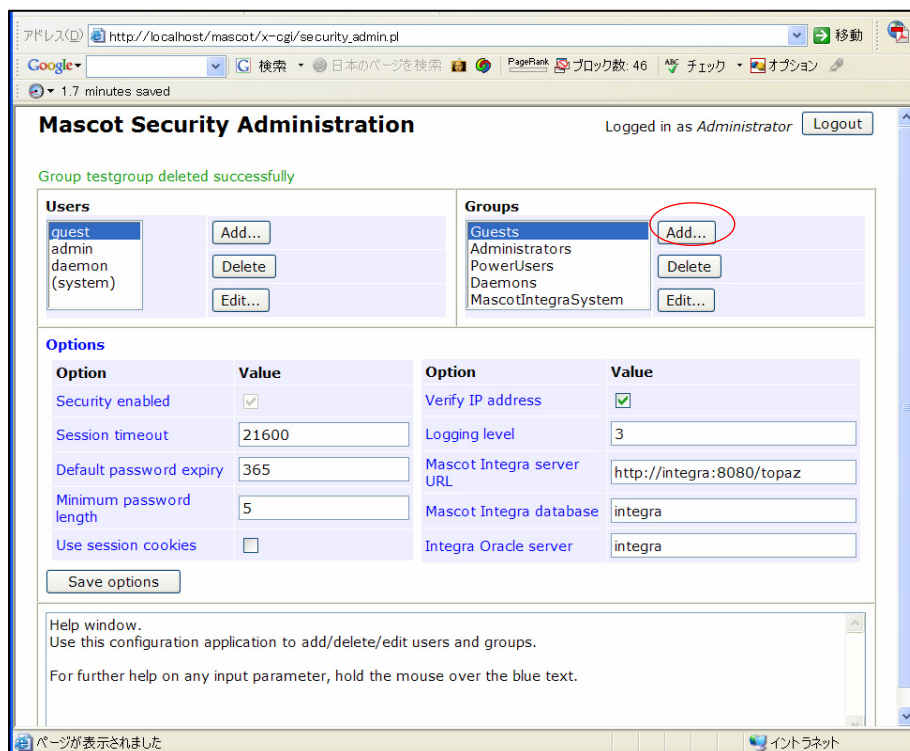


入力後、2回新規パスワードを入力する画面が現れますので続けて入力してください。以後、管理者としてこの” admin” ユーザーを使用します。

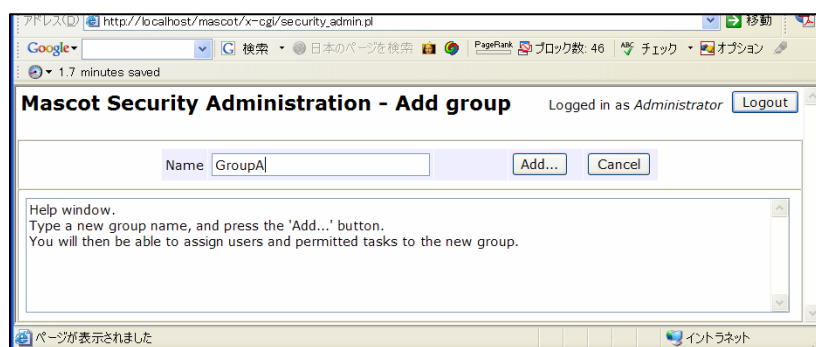
### ③ 新規グループ GroupA の作成

各メンバーが所属する GroupA , GroupB を作成します。

Security Administration のトップページで、” Groups” セクションの” Add...” ボタンを押してください（次頁図）。

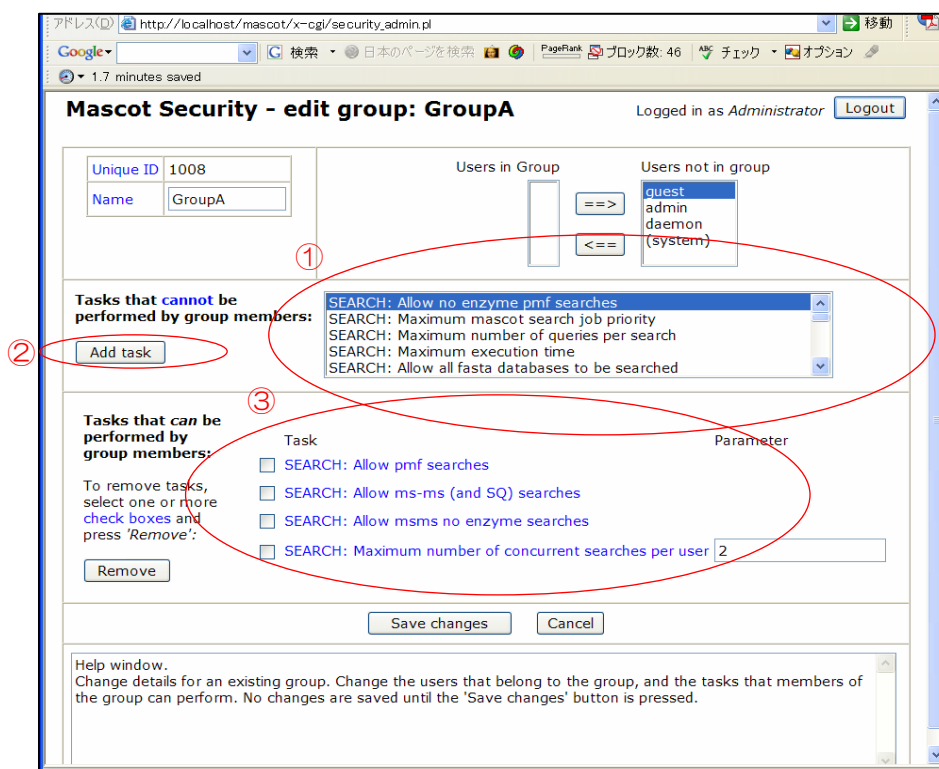


まず、GroupA を作成します。新規 Group 名を入力する画面が現れますので “GroupA” と入力し、” Add...” ボタンを押します（下図）。



GroupA の権限を定義する画面へ移行します。

① “Tasks that cannot be performed by group members :” の右側の欄で、付与したい権限を選び、②左側の “Add task” ボタンを押すとそのグループに権限が付与されます。付与された権限は、③下段の “Tasks that can be performed by group members:” の Task 項目に表示されていきます。（次ページ図）



GroupA の条件を満たすために加えなくてはならない権限オプションを次ページに記します。参考のため、GroupB の権限もあわせて表示します。表中赤で表示されている箇所は GroupA, GroupB で設定が異なる箇所です。

■ **Maximum number of concurrent searches per user** (設定値 2)

GroupB のメンバーが検索する際、1人が同時に多数の検索を行わないようにする。

■ **Maximum number mascot search job priority** (設定値 - 1)

GroupB のメンバーが検索している時に GroupA のメンバー(優先度はデフォルトの 0)が検索を始めた場合、GroupA の検索が優先されるようにする。

■ **Maximum number of queries per search** (設定値 10,000)

GroupB のメンバーの検索はクエリー数を 10,000 を上限とする

■ **See search results from other people in your own group**

GroupA のみ、メンバーの結果を見ることができるようにするための設定

■ **For Mascot Daemon, allow spoofing of another user**

GroupA のみ、他のメンバーの変わりに Daemon で検索できるようにするための設定

項目	Group A	Group B
<b>&lt; SEARCH &gt;</b>		
Allow pmf searches	○	○
Allow ms-ms ( and SQ ) searches	○	○
Allow no enzyme pmf searches	○	○
Allow msms no enzyme searches	○	○
Maximum number of concurrent searches per user	×	○ (2)
Maximum number mascot search job priority	×	○ (-1)
Maximum number of queries per search	×	○ (10,000)
Maximum execution time	×	×
Allow all fasta databases to be searched	○	○
Special fasta databases that override the default settings	×	×
<b>&lt; View &gt;</b>		
See search results from other people in your own group	○	×
See search results with a USERID	×	×
See all search results without USERID field	×	×
Allow user to view the search log	○	○
<b>&lt; General &gt;</b>		
View config files using ms-status	○	○
Allow user to modify their own profile	○	○
<b>&lt; Client &gt;</b>		
Mascot Daemon is allowed to submit searches	○	○
Mascot Distiller is allowed to submit searches	○	○
For Mascot Daemon, allow spoofing of another user	○	×
Integra system account	○	○
<b>&lt; Admin &gt;</b>		
Allow use of Database Status application	○	○

- 他の ADMIN の権限については、両グループともすべて入れない。

GroupA のセキュリティ設定が終わったら、画面下部の “Save changes” ボタンを押して設定を保存してください。これで GroupA の設定は終了です。

#### ④ Group B の作成

③の Group A 作成と同様の流れで、Group B を作成してください。付与する権限については前ページの表を参考にしてください。

#### ⑤ ユーザーの作成

グループ作成後、グループに属するユーザーを作成します。” Users” セクションの “Add...” ボタンを押してください（下図）。

The screenshot shows the Mascot Security Administration interface. The 'Users' section lists 'guest', 'admin', 'daemon', and '(system)', with an 'Add...' button circled in red. The 'Groups' section lists 'Administrators', 'PowerUsers', 'Daemons', 'MascotIntegraSystem', and 'GroupA', with an 'Add...' button. The 'Options' section contains a table of configuration settings:

Option	Value	Option	Value
Security enabled	<input checked="" type="checkbox"/>	Verify IP address	<input checked="" type="checkbox"/>
Session timeout	21600	Logging level	3
Default password expiry	365	Mascot Integra server URL	http://integra:8080/topaz
Minimum password length	5	Mascot Integra database	integra
Use session cookies	<input type="checkbox"/>	Integra Oracle server	integra

Below the options table is a 'Save options' button and a 'Help window' section with the following text:

Help window.  
Use this configuration application to add/delete/edit users and groups.  
For further help on any input parameter, hold the mouse over the blue text.

まず、GroupA に属する ” MrsA ” ユーザーを作成します。下図のように各項目を記入してください。また、右側の “ User is a member of the following groups ” にて GroupA を選択してください。

The screenshot shows a web browser window with the URL `http://takaesu/mascot/x-cgi/security_admin.pl`. The page title is "Mascot Security Administration - Add user". The user is logged in as "Administrator". The form contains the following fields and options:

- Name: MrsA
- Password: [masked]
- Password expiry:  Never,  Default,  Force change at next login
- Full name: Mrs.A
- Email address: mrsA@matrixscience.com
- User type: Standard Mascot user
- Account enabled:

On the right, the "User is a member of the following groups" section shows a list of groups: Guests, Administrators, PowerUsers, Daemons, MascotIntegraSystem, GroupA, and GroupB. GroupA is selected.

At the bottom, there are "Add user" and "Cancel" buttons. A help window at the bottom of the page contains the following text:

Help window.  
Enter a user name, password, full name and email address for the new user.  
Select one or more groups for the user to belong to.  
Finally, press the 'Add user' button.  
For further help on any input parameter, hold the mouse over the blue text.

記入・選択後、画面下部の “ Add user ” ボタンを押してください。これで MrsA ユーザー作成は完了です。

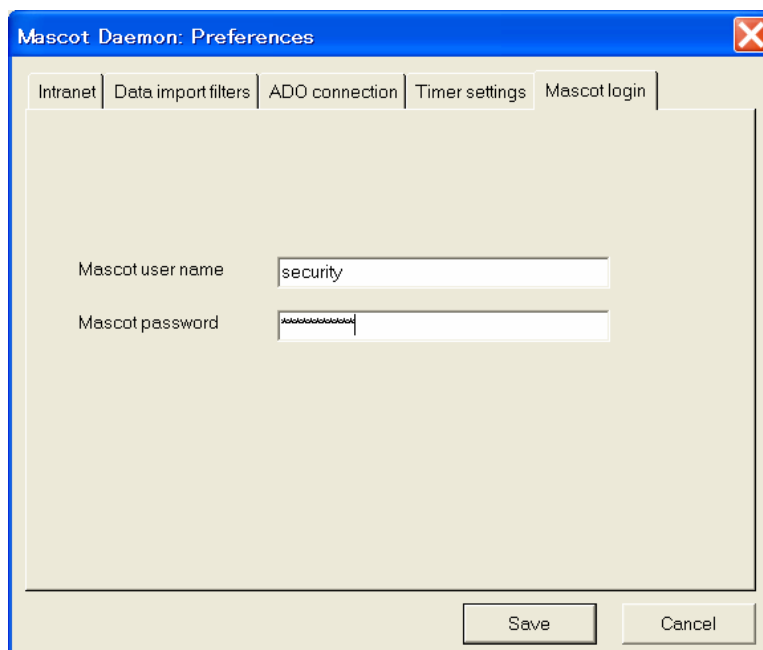
同様の操作で MrB ( GroupA ) , MrC, MrD, MrE ( GroupB ) ユーザーを作成してください。

以上で設定は完了です。





Preferences ダイアログの “ Mascot login ”タブを押すと、下図の画面が現れます。  
“ Mascot user name “ と “ Mascot password ” のところに、Daemon での検索実行  
権限 <CLIENT : Mascot Daemon is allowed to submit searches > を持つユーザーの  
ユーザー名とパスワードを入力して Save ボタン を押してください。

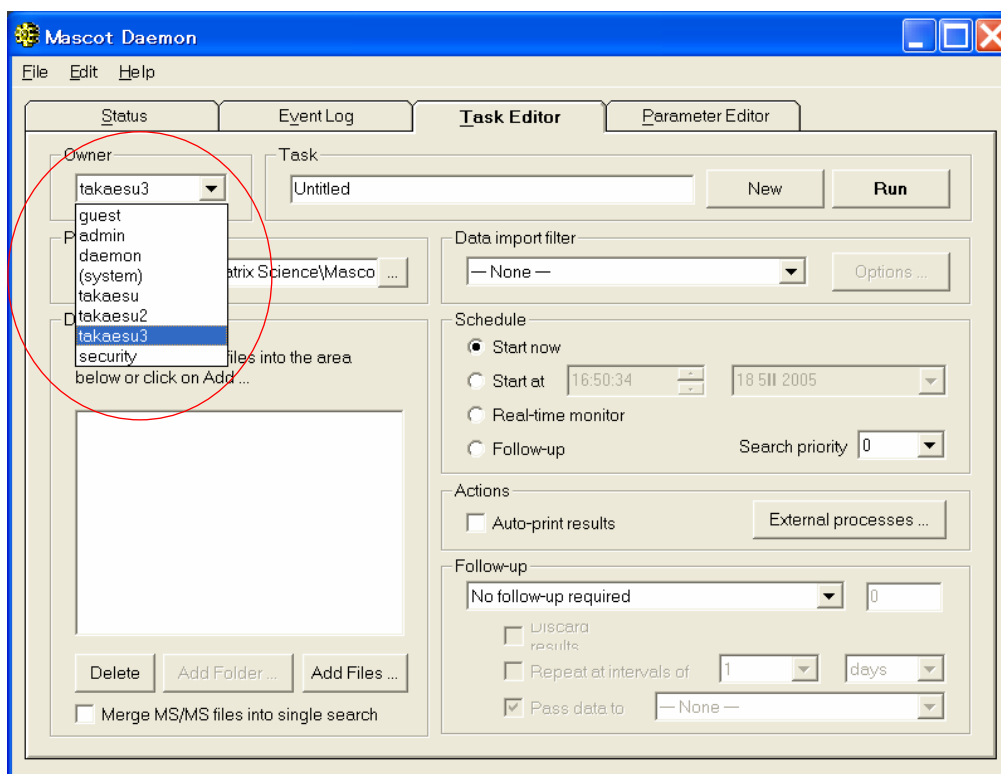


設定したユーザーが Daemon 検索できるかを確認した後、Daemon を一度停止するよう  
聞いてきます。OK を押して Daemon を終了させ、再度起動してください。

以後、特に設定を変えない限り Mascot Daemon からの検索は上記設定ユーザーからの検  
索になります。

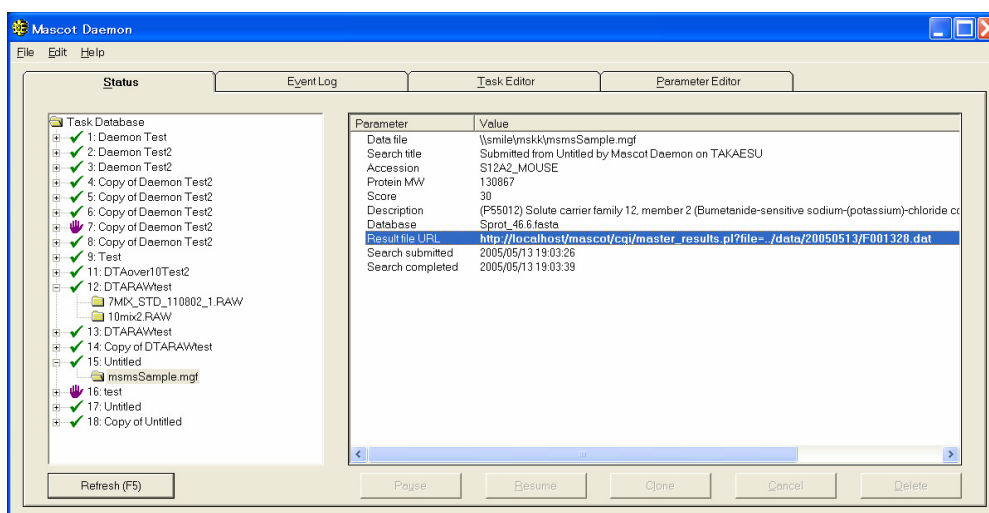
## 注 2：検索ユーザーについて

他のユーザーからの検索としたい場合には2つの方法があります。1つは上記作業にてロ  
グインし直す、もう1つは Daemon ログインユーザーに CLIENT:For Mascot  
Daemon,allow spoofing of another user” を付与した上で、検索時に Task menu の  
owner から別ユーザーを指定する方法です。（次ページ図）



### 注3 結果の閲覧について

Daemon で検索した結果を見る場合、Daemon のログインとは別に WEB から予めログインしておく必要があります。事前にログインしておかなかった場合、Daemon から結果のハイパーリンクを押しても次ページ図のように “Sorry guest is not authorized to view this result report” と表示され結果を見ることができません。





## 12-9 設定 Q&A

ここではセキュリティ設定を ON にした後に起こりうるトラブル・よく質問されることが想定される設定例の Q&A を紹介しています。

### 〈 検索に関するトラブル 〉

**Q1.** Mascot Daemon の検索ができないのですが？

**A1.** Daemon からログインが必要です。

“ 12-8 : Mascot Daemon の設定 ” の注 1 にあるように、Daemon の設定で Mascot Server にアクセスするためのユーザー名とパスワードを設定する必要があります。またユーザーには “ CLIENT: : Mascot Daemon is allowed to submit searches ” の権限が付与されている必要があります。

**Q2.** Mascot Distiller でピーク処理後、検索を行おうとすると、“ **Error: This user is not permitted to submit searches of type MIS** ” というエラーメッセージが出て検索パ

ラメーター指定画面が出てこない。その後、WEB ブラウザからログインしても画面が出てこない。

### A2. 別途 WEB ブラウザからログインしてください。

Daemon からではなく、Distiller から検索したい場合、Distiller 1.1.2 以前のバージョンでは事前に WEB ブラウザを通じて検索したいユーザーでログインしておく必要があります。なお、Distiller ver 2.0 以降は Daemon 同様ソフトウェア側でログイン設定をする予定です。また、Distiller 1.1.2 以前のバージョンではセキュリティ設定で “ CLIENT: : Mascot Daemon is allowed to submit searches ” の権限を付与する必要はありません。

## < 結果閲覧に関するトラブル >

Q3. セキュリティで、特に結果閲覧に関する設定の具体例を教えてください。

### A3. 以下の表を参考にしてください。

ケース	See search results from other people in your own group	See search results with a USERID	See all search results without USERID field	Allow user to view the search log
サーチログ：使用 結果：自分のみ v2.1 以前結果：×	×	×	×	○
サーチログ：×	×	×	×	×
サーチログ：使用 結果：グループメンバー v2.1 以前結果：○	○	×	○	○
サーチログ：使用 結果：全員 v2.1 以前結果：○	どちらでもよい	○	○	○

## 【ケース】の見方

- サーチログ : “ Search log ” 画面（結果一覧画面）を表示するかどうか。  
“使用”か“×”（不使用）で表現されています。
- 結果 : 自分のみ／グループメンバーのみ／全員 の結果が見ることができるかどうかを表しています。
- V2.1 以前結果 : セキュリティ機能を ON にする前の結果はユーザー別の閲覧制限をかけることができません。これらの結果を 見る / 見ない の2者択一で設定します。
- 

**Q4.** Mascot Daemon で検索した結果を見る時に “**Sorry, guest is not authorised to view this result report**” というエラーメッセージが出て表示されない。

**A4.** 別途 WEB ブラウザからログインしてください。

“ 12-8 : Mascot Daemon の設定 ” の注3 にあるように、Daemon のログインとは別に WEB から予めログインしておく必要があります。詳細は P27 の該当項目をご覧ください。

---

### < Mascot Server 設定に関するトラブル >

---

**Q5.** Database Status ページで 表示されないデータベースがある、またはすべてのデータベースが表示されない。

**A5. Admin: ” Allow all fasta databases to be searched ” が必要**

セキュリティ設定で、SEARCHES の検索使用 DB として登録されていない DB は Database Status ページから見ることはできません。すべての DB が見ることができない場合は ” Allow all fasta databases to be searched ” のオプションが ON になっていないことが考えられます。

---